



角 笛 会 会 報

発行所

日本大学生物資源科学部
獣医学科角笛会〒252-8510
藤沢市亀井野 1 8 6 6
0466-84-3636

角笛会会報巻頭文

角笛会会長 中川秀樹

我が国で相次いで発生したBSE、高病原性鳥インフルエンザは大きな社会問題となり、農水省、厚労省は挙げてその対策に努力を傾注してまいりました。BSEについては生産段階での牛の全頭検査、個体識別、トレーサビリティの導入により不安が解消され、高病原性鳥インフルエンザは発生初期の対応を適正に図ったことで沈静化が確保されました。関係する獣医師の懸命な努力は国民の健康と食の安全にその存在が不可欠であることを社会に示す結果となり、また、政府が新たに食

品安全委員会を設置し、本学の見上彪獣医公衆衛生学教授を委員に任命したことからも獣医師の役割が如何に重要であるかを物語っております。人と物がグローバルに往来する今日は、新興感染症を始め人獣共通感染症、動物感染症、植物害虫侵入などの危険に絶えずさらされる状況にあります。ハムスターに咬まれた人がアナラキシーショックで死亡した報道があった後は小動物臨床獣医師に危険性についての問い合わせが多数寄せられたり、高病原性鳥インフルエンザが発生した

時は、小学校で飼育されているニワトリが子供に安全か否かの相談が殺到したことを観ても獣医師の職責の重要性は益々増大し、国民の身近にあることが見て取れます。こうした状況の中で活躍する多くの獣医師を排出してきた日本大学獣医学科の歴史はまもなく100年の節目を迎えることになります。平成16年春季叙勲においては佐久間勇次本学名誉教授に瑞宝中綬章が授与されました。この慶賀は獣医学研究が高く評価されたことであり、角笛会会員にとっても誇りに感じることであります。各界で活躍されている同窓生で組織される角笛会はその親睦親交の拠り所として情報伝達、教育現場との連携支援に向けた活動を今後も心がけてまいりたいと思います。今後とも会員各位の御支援御鞭撻を心より御願ひ申し上げます。

■ 本学における獣医学教育の充実 ■

獣医学科主任 渡部 敏

角笛会会員の皆様には御健勝にて御活躍のことと存じます。

以前にも申し上げました様に国立大学においては、平成14年6月の閣議決定に従って平成16年4月、「国立大学の法人化・非公務員化」が施行されました。今後、国立獣医系大学法人においては、獣医学教育の充実と国際化とを前提にした再編・整備、または統合による学部および大学院大学を設置しなければなりません。そして平成22年には、教育の充実と国際化の中期目標・計画の達成度が第三者評価委員（仮称）によって評価され、予算配分に反映されます。国立獣医系大学法人における具体的な獣医学教育の充実と国際化とは、以下の様であります。

平成9年2月、獣医学教育の充実と国際化に先駆けて、大学基準協会は「獣医学教育に関する基準」を改定しました。その基準によれば、



獣医学教育および研究は、「獣医学部」あるいはこれに相当する学部組織により実施し、付属施設として「獣医学教育病院」、「獣医臨床センター」および「先端動物研究センター」などを設置する必要があります。更に「公衆衛生臨床研修センター」、「野生動物臨床研修センター」、「毒性安全性研修センター」、または「獣医熱帯病臨床研修センター」から何れか一施設を選択して設置することが挙げられています。

平成12年3月、日本学術会議獣医学研究連絡委員会は、「わが国の獣医学教育の抜本的改革に関する提言」として、獣医学教育および研究を「獣医学部」において行うものとし、獣医学教育を社会の要請に対応した国際的水準に到達させるため、抜本的改革の必要性を提言しています。

平成13年4月、全国大学獣医関係代表者協議会会長（唐木英明 東京大学教授）から「獣医学教育基準の達成に関する要望書（通知）」が各関係大学学長、総長宛に送達されました。その中で、「各私立大学が建学の精神に沿って獣医学部教育の整備充実に向けて一層努力

することを要する」と述べています。この要望書は、先の日本学術会議の提言と同様、獣医学教育および研究は、云うまでもなく「学部教育」としてであり、その整備および充実を促しています。

現在、国立獣医系大学法人の再編・整備、国際化は、6年後の中期目標を達成するため、自助努力によって推進されています。それに伴って、私立獣医系大学における獣医学教育の充実と国際化も必定の状況にあります。

同僚校である日本獣医畜産大学は、獣医畜産学部獣医学科を獣医学部に改組し（平成14年7月、文部科学省認可）、平成16年度入学生からは、獣医学部入学生となりました。こうした状況から、遅れ馳せながら、本学においても現行の獣医学科を獣医学部に改組し、獣医学教育の充実と国際化を図ることについて、この6年以内が正念場であり、本学が私立大学の雄として隆昌を遂げる最善の策と考えられます。校友の皆様方には現況推察の上、今後とも宜しく御協力の程を御願ひ申し上げる次第であります。

■ 平成16年度角笛会総会開催 ■

平成16年7月3日（土）、日本大学湘南校舎で、本年度の角笛会総会が開催されました。今回は、新たな試みとして、午前中は第42回日本大学獣医学会、午後からは角笛会という合同開催のスタイルでした。角笛会の幹事会、総会では先ず事務局より提出した平成15年度の事業報告、会計報告が、月瀬東、山村穂積、鳥海弘監事の監査報告を受けた後、承認されました。続いて平成16年度事業計画案、同予算案が審議され、順当に承認、成立致しました。平成15年度では総計16回、



各地方支部会、同僚校友会等に大学教員、角笛会執行部を派遣致しました。また、角笛会功労者として、長年会長として本会の発展にご尽力いただいた日比野次郎先生（昭14）が満場一致で承認され、総会終了後に記念品とともに表彰状が授与されました。今回は、ANMEC（日本大学動物病院）支援基金授与者の該当者はありませんでした。会員からは、角笛会会則の改正の進捗状況に関する質問があり、今年度中にも改正素案を作成することを確認いたしました。

角笛会の教育講演として、桑原正人先生による「骨疾患のエックス線画像診断からみた治療の決定」が1012教室で開催されました。

新支部長の就任に伴う幹事候補として山川寛行氏（徳島、昭32）、新里康彦氏（沖縄、

昭50）が、クラス幹事として瀧澤文雄氏（平15）、平野悠子氏（平15）がそれぞれ新たに承認されました。

午後4時からNUホール3階にて催された懇親会には、茂澤生物資源科学部校友会会長をはじめ同僚校友会の来賓の方々、獣医学科教員を含め約80名に参会いただきました。中川会長の挨拶に始まり、この春に瑞宝中綬章をお受けになった佐久間勇次名誉教授（写真）の乾杯の後、和やかな雰囲気の中に、懇親会は進行し、会場のあちらこちらで談笑の輪ができていました。（事務局 丸山 総一）



総会資料

平成15年度一般会計収支決算報告書

平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで

一般収入の部				(円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
I. 支部会員費	1,600,000	1,393,000	△ 207,000	1,393名分
今年度分	1,200,000	1,168,000	△ 32,000	1,168名分
過年度分	400,000	225,000	△ 175,000	225名分
II. 終身会員費	600,000	200,000	△ 400,000	10名×@20,000(平成14年度卒業生)
III. 新入会員費	1,200,000	614,750	△ 585,250	校友会本部(9月以降)
IV. 学部校友会交付金	200,000	200,000	0	学部より
V. 寄付金	0	0	0	
VI. 懇親会参加費	300,000	294,000	△ 6,000	内訳を下記に記載
VII. 預金利子	3,013	19	△ 2,994	
VIII. その他	0	50,000	50,000	平成16年会費 福島支部
当期一般収入小計(A)	3,903,013	2,751,769	△ 1,151,244	
前期繰り越し額	3,636,987	3,636,987	0	H14年度
当期一般収入合計	7,540,000	6,388,756	△ 1,151,244	

平成15年度 懇親会内訳	内訳	人数(名)	金額	平成15年度 総収入合計(B) 6,388,756円
	教員(3,000円)	23	69,000円	
	一般(5,000円)	42	210,000円	
	御祝い(太田享二先生)	1	5,000円	
	御祝い(生物資源学部校友会)	1	10,000円	
合 計		67	294,000円	

一般支出の部				(円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
I. 経常費	4,570,000	1,944,279	2,625,721	
1-1. 会合費	870,000	55,927	814,073	会議等、懇親会赤字分
1-2. 懇親会費	300,000	360,000	△ 60,000	5,000円/人
2. 交際費	700,000	229,865	470,135	支部総会等祝い金
3. 旅費交通費	1,000,000	565,000	435,000	支部総会等旅費
4. 通信運搬費	500,000	125,864	374,136	通信料・銀行振込料
5. 事務局運営費	1,200,000	607,623	592,377	給与、事務用品等
II. 会報費	700,000	0	700,000	会報19号(6月上旬に発送)
III. 名簿作成繰入金	300,000	300,000	0	特別会計Ⅰ
IV. 名簿管理費	300,000	0	300,000	業務委託 名簿費等
V. 卒業生記念品費	500,000	82,005	417,995	平成15年度卒業生他
VI. 学会補助費	200,000	200,000	0	第41回日大獣医学会
VII. 将来事業基金	300,000	300,000	0	特別会計Ⅱ
VIII. 組織拡充費	400,000	0	400,000	情報ネット化調査費
IX. 予備費	270,000	64,680	205,320	表彰者記念品代
当期一般支出小計(C)	7,540,000	2,890,964	4,649,036	
当期一般収支差額(A-C)	△ 3,636,987	△ 139,195	△ 3,497,792	三菱銀行

平成15年度 総支出合計(D) 2,890,964円
平成15年度 次期繰越収支差額(B-D) 3,497,792円
合計 6,388,756円

支出の部内訳
I-4. 通信運搬費 郵便振替手数料 4件×@120円含む
V. 卒業生記念品費内訳 平成15年度卒業生 男子73名 女子72名 合計145名分

保管状況 三菱銀行(年会費) 392,204円 郵便局(年会費) 1,031,960円
、(終身会員) 1,783,204円 郵便局(終身会員) 288,900円
手持ち現金 1,524円

合計 3,497,792円

平成15年度特別会計Ⅰ 収支決算報告書【名簿会計】

平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで

収入の部				(円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
I. 名簿作成繰入金	300,000	300,000	0	三菱定期
II. 預金利子	10,601	3,362	△ 7,239	大和証券／三菱銀行
III. 繰越差額	0	0	0	
当期収入合計(A)	310,601	303,362	△ 7,239	
前期繰越額	3,909,399	3,909,399 (含△12,786)	0	△大和証券利率減分 (平成16.3.31)
収入合計(B)	4,220,000	4,199,975	△ 20,025	

支出の部				(円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
I. 名簿印刷費	0	0	0	
II. 送料	0	0	0	
III. 名簿作成費	3,910,000	0	3,910,000	
III. 予備費	310,000	0	310,000	
当期支出合計(C)	4,220,000	0	4,220,000	
当期収支差額(A-C)	△ 3,909,399	303,362	△ 4,212,761	
次期収支繰越差額(B-C)	0	4,199,975	△ 4,199,975	

保管状況	三菱定期3ヶ月	平成16.3.31	900,867円	900,867円
		平成15.4.1	900,765円	
		年利息	102円	
	大和証券公社債	平成16.3.31	3,299,108円	3,299,108円
		平成15.4.1	3,295,812円	
		年利息	3,296円	
				合計 4,199,975円

平成15年度特別会計Ⅱ 収支決算報告書【支援基金・将来事業資金】

平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで

収入の部				(円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
I. 将来事業繰入金	300,000	300,000	0	三菱定期
II. 預金利子	12,536	2,143	△ 10,393	大和証券／三菱銀行
当期収入合計(A)	312,536	302,143	△ 10,393	
前期繰越収支差額	6,587,464	6,587,464	0	
収入合計(B)	6,900,000	6,889,607	△ 10,393	

支出の部				(円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
I. 研究助成費(ANMEC支援)	500,000	300,000	200,000	北川 勝人先生へ
II. 外国専門医招聘料	100,000	0	100,000	
予備費	1,200,000	0	1,200,000	
将来事業基金	5,100,000	0	5,100,000	
当期支出合計(C)	6,900,000	300,000	6,600,000	
当期収支差額(A-C)	△ 6,587,464	2,143	△ 6,589,607	
次期収支繰越差額(B-C)	0	6,589,607	△ 6,589,607	

保管状況	三菱定期3ヶ月	平成16.3.31	900,819円	900,819円
		平成15.4.1	900,708円	
		年利息	111円	
	大和証券MMF	平成16.3.31	5,688,788円	5,688,788円
		平成15.4.1	5,986,756円	
		ANMEC支援	300,000円	
	年利息	2,032円	合計 6,589,607円	

研究助成内訳 北川 勝人氏 研究題目:小動物てんかん発作性疾患の診断確立に関する研究

総会資料

平成16年度一般会計 予算(案)

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

収入の部(一般)

(円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額	備 考
I. 支部会員費	1,600,000	1,600,000	0	1600名×@1,000
今年度分	1,200,000	1,200,000	0	1200名×@1,000
過年度分	400,000	400,000	0	400名×@1,000
II. 終身会員費	0	600,000	△ 600,000	
III. 新入会員費	1,200,000	1,200,000	0	校友会本部
IV. 学部校友会交付金	200,000	200,000	0	学部より
V. 寄付金	0	0	0	
VI. 懇親会参加費	0	300,000	△ 300,000	
VII. 雑費	2,208	3,013	△ 805	預金利子等
VIII. その他	0	0	0	
当期収入合計(A)	3,002,208	3,903,013	△ 900,805	
前期繰り越し額	4,097,792	3,636,987	460,805	
収入合計(B)	7,100,000	7,540,000	△ 440,000	

1.平成16年度懇親会収入の部

科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額	備 考
懇親会参加費 (C)	400,000	0	400,000	

平成16年度予算 収入の部合計 (B)+(C)

7,500,000円

支出の部(一般)

(円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額	備 考
I. 経常費	3,450,000	4,570,000	△ 1,120,000	
1-1. 会合費	600,000	870,000	△ 270,000	会議等
1-2. 懇親会費	0	300,000	△ 300,000	5,000円/人
2. 交際費	600,000	700,000	△ 100,000	支部総会等祝い金
3. 旅費交通費	900,000	1,000,000	△ 100,000	支部総会等旅費
4. 通信運搬費	500,000	500,000	0	通信
5. 事務局運営費	850,000	1,200,000	△ 350,000	給与、ソフト等
II. 会報費	1,400,000	700,000	700,000	会報19, 20号
III. 名簿作成繰入金	300,000	300,000	0	特別会計Ⅰへ
IV. 名簿管理費	300,000	300,000	0	業務委託等
V. 卒業生記念品費	500,000	500,000	0	平成16年度卒業生
VI. 学会補助費	200,000	200,000	0	第42回日大獣医学会
VII. 将来事業繰入金	300,000	300,000	0	特別会計Ⅱへ
VIII. 組織拡充費	400,000	400,000	0	情報ネット化調査費
予備費	250,000	270,000	△ 20,000	
当期支出合計(C)	7,100,000	7,540,000	△ 440,000	
当期収支差額(A-C)	△ 4,097,792	△ 3,636,987	△ 460,805	
次期繰越収支差額(B-C)	0	0	0	

1.平成16年度懇親会支出の部

科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額	備 考
懇親会費(D)	400,000	0	400,000	5,000円/人

平成16年度予算 支出の部合計 (C)+(D)

7,500,000円

平成16年度特別会計Ⅰ 予算【名簿会計】(案)

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

収入の部				(円)
科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額	備 考
I. 名簿作成繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
II. 雑費	10,025	10,601	△ 576	預金利子等
当期収入合計(A)	310,025	310,601	△ 576	
前期繰り越し額	3,899,975	3,909,399	△ 9,424	
収入予算合計(B)	4,210,000	4,220,000	△ 10,000	

支出の部				(円)
科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額	備 考
I. 名簿印刷費	0	0	0	
II. 送料	0	0	0	
III. 名簿作成積立金	3,910,000	3,910,000	0	
III. 予備費	300,000	310,000	△ 10,000	
当期支出合計(C)	4,210,000	4,220,000	△ 10,000	
当期収支差額(A-C)	△ 3,899,975	△ 3,909,399	9,424	
次期収支繰越差額(B-C)	0	0	0	

平成16年度特別会計Ⅱ 予算【支援基金・将来事業資金】(案)

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

収入の部				(円)
科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額	備 考
I. 将来事業繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
II. 雑費	10,393	12,536	△ 2,143	預金利子等
当期収入合計(A)	310,393	312,536	△ 2,143	
前期収支繰越差額	6,289,607	6,587,464	△ 297,857	
1. ANMEC支援基金	1,639,607	1,937,464	△ 297,857	
2. 将来事業基金	4,650,000	4,650,000	0	
収入予算合計(B)	6,600,000	6,900,000	△ 300,000	

支出の部				(円)
科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額	備 考
I. 研究助成費	500,000	500,000	0	ANMEC支援基金
II. 外国専門医招聘料	150,000	100,000	50,000	ANMEC支援基金
III. 特別事業費	950,000	1,200,000	△ 250,000	
IV. 将来事業基金	5,000,000	5,100,000	△ 100,000	
当期支出合計(C)	6,600,000	6,900,000	△ 300,000	
当期支出差額(A-C)	△ 6,289,607	△ 6,587,464	297,857	ANMEC支援基金 1,639,607円 将来事業基金 4,650,000円
次期繰越収支差額(B-C)	0	0	0	

ANMEC関連記事

平成15、16年度 ANMECセミナー (第88回~第104回)

第88回 (H15.4.21開催) 参加者210名(外部8名・内部202名)

教育講演: 第8回 感染防御シリーズ: 「アレルギー性疾患」

コーディネーター: 加納 壘

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 発生機序について | 長谷川篤彦 (獣医臨床病理学) |
| 2. アレルギーとサイトカイン | 加納 壘 (獣医臨床病理学) |
| 3. 症例検討 | 中村 遊香 (獣医内科学) |

第89回 (H15.5.19開催) 参加者175名(外部10名・内部165名)

教育講演: 第17回 臓器別疾患シリーズ: 「乳腺腫瘍」

コーディネーター: 浅野 和之

- | | |
|------------|---------------|
| 1. 乳腺の解剖 | 木村 順平 (獣医解剖学) |
| 2. 乳腺腫瘍の病理 | 渋谷 久 (獣医病理学) |
| 3. 乳腺腫瘍の臨床 | 浅野 和之 (獣医外科学) |

第90回 (H15.6.16開催) 参加者157名(外部3名・内部154名)

教育講演: 「止血凝固異常」

コーディネーター: 亘 敏広

- | | |
|------------|----------------|
| 1. 止血メカニズム | 大谷 功 (獣医生理学) |
| 2. 止血凝固異常症 | 亘 敏広 (総合臨床獣医学) |

第91回 (H15.7.28開催) 参加者136名(外部17名・内部119名)

教育講演: 第9回 感染防御シリーズ: 「新興・再興感染症: 狂犬病」

コーディネーター: 丸山 総一 (獣医公衆衛生学)

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. コウモリと狂犬病 | 伊藤 琢也 (日大 獣医衛生学) |
| 2. 狂犬病の危機管理 | 井上 智 (国立感染研) |
| 3. 人の狂犬病とその対応 | 高山 直秀 (都立駒込病院) |

第92回 (H15.9.22開催) 参加者138名(外部5名・内部133名)

教育講演: 第18回 臓器別疾患シリーズ: 「副腎皮質疾患について」

コーディネーター: 津曲 茂久

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 副腎皮質の機能 | 大谷 功 (獣医生理学) |
| 2. 副腎皮質疾患の病理 | 佐藤 常男 (獣医病理学) |
| 3. 副腎皮質疾患の臨床 | 津曲 茂久 (獣医臨床繁殖学) |

第93回 (H15.10.20開催) 参加者103名(外部8名・内部95名)

教育講演: Dr. David L. Hammond

DVM, Diplomate, ACVIM: Horizon Health Service, Inc

「小動物の臨床栄養学」

抗酸化成分

- その最近の知見と健康増進ならびに健康的な加齢への応用 -

第94回 (H15.11.17開催) 参加者132名(外部3名・内部129名)

教育講演: Dr. Chris Preston

アメリカ外科専門医、オーストラリア外科専門医

「小動物外科」(整形、腫瘍、神経)

第95回 (H15.12.15開催) 参加者96名(外部6名・内部90名)

教育講演: 第19回 臓器別疾患シリーズ: 「前十字靭帯断裂の診断と治療」

コーディネーター: 山谷 吉樹

望月 学 (東京大学 大学院 農学生命科学研究科)

第96回 (H16.1.26開催) 参加者140名(外部6名・内部134名)

教育講演: 第10回 感染防御シリーズ: 「免疫不全」

コーディネーター: 加納 壘

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 自然免疫と免疫不全 | 椎橋 孝 (獣医免疫動物学) |
| 2. やさしく図説 獲得免疫 | 大谷 功 (獣医生理学) |
| 3. 免疫不全に伴う日和見感染症 | 加納 壘 (獣医臨床病理学) |
| 4. 免疫不全の症例 | 亘 敏広 (総合臨床獣医学) |

第97回 (H16.2.23開催) 参加者98名(外部3名・内部95名)

教育講演: 第20回 臓器別疾患シリーズ: 肝臓「門脈体循環短絡(PSS)」

コーディネーター: 坂井 学

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1. 「門脈体循環短絡」理解のための解剖学 | 木村 順平 (獣医解剖学) |
| 2. 門脈体循環短絡の診断 | 坂井 学 (総合臨床獣医学) |
| 3. 門脈体循環短絡の治療 | 浅野 和之 (獣医外科学) |

第98回 (H16.3.15開催) 参加者146名(外部4名・内部142名)

教育講演: 第11回 感染防御シリーズ: 「今、話題の感染症」

コーディネーター: 丸山 総一

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. コイヘルペスウイルス病 | 中西 照幸 (魚病学) |
| 2. 高病原性鳥インフルエンザ | 壁谷 英則 (獣医公衆衛生学) |
| 3. 牛海綿状脳症(BSE) | 丸山 総一 (獣医公衆衛生学) |

第99回 (H16.4.5開催) 参加者90名(外部5名・内部85名)

教育講演: 初診時から悪化するまでの顛末に学ぶ

「単純エックス線検査におけるレントゲンサインの活用の勘所」

桑原 正人 (獣医放射線学)

第100回 (H16.5.17開催) 参加者100名(外部28名・内部72名)

教育講演: 第16回 臓器別疾患シリーズ: 「鼻腔内腫瘍」

コーディネーター: 亘 敏広

「小動物臨床の近未来に向けて」

中川 秀樹

横浜市獣医師会会長 ANMEC非常勤講師

第101回 (H16.6.21開催) 参加者100名(外部12名・内部88名)

教育講演: Advances in clinical Neurology in Small animals

Dr. Rodney Bagley

(WSU. Neurology, Neurosurgery Diplomate: ACVIM, ACVN)

第102回 (H16.7.26開催) 参加者77名(外部6名・内部71名)

教育講演: 第21回 臓器別疾患シリーズ: 「脊髄疾患」

コーディネーター: 枝村 一弥

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1. 歩行運動に関与する脊髄の機能 | 徳力 幹彦 (総合臨床獣医学) |
| 2. 脊髄疾患の病理学 | 鈴木 和彦 (獣医病理学) |
| 3. 脊髄疾患の診断・治療 - 椎間板ヘルニアを中心に - | 枝村 一弥 (獣医外科学) |

第103回 (H16.9.27開催) 参加者113名(外部4名・内部109名)

教育講演: 第12回 感染防御シリーズ: 「自己免疫性疾患」

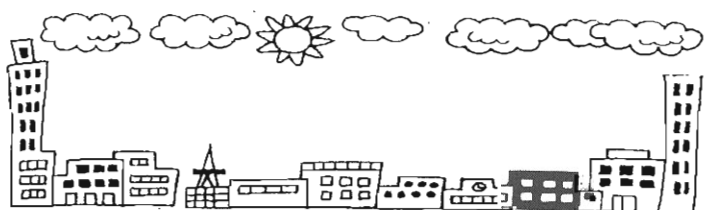
コーディネーター: 亘 敏広

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 自己免疫性疾患の病態生理 | 森友 忠昭 (魚病学) |
| 2. 自己免疫性疾患の動物モデル | 大谷 功 (獣医生理学) |
| 3. 動物の自己免疫性皮膚疾患 | 加納 壘 (獣医臨床病理学) |
| 4. 動物の自己免疫性血液疾患 | 亘 敏広 (総合臨床獣医学) |

第104回 (H16.10.18開催) 参加者150名(外部5名・内部145名)

教育講演: theoryの「そこが知りたい」骨軟骨症の診断と治療!

桑原 正人 (獣医放射線学)



獣医学科の近況

獣医学科入試・入学状況

現在、本学では種々の方法で入学者の選抜が行われていますが、獣医学科のそれぞれの受験状況は以下の表に示すとおりです。なお、獣医学科指定校推薦（普通科）および付属校特別推薦は平成17年度入試より廃止されました。

選抜方法	募集人員	受験者数	合格者数	競争率
指定校推薦(普通科)	学部全体で110名	26(15)	13(5)	2.0倍
公募制推薦(普通科)	学部全体で55名	55(39)	10(8)	5.5倍
公募制推薦(関連産業後継者)	学部全体で44名	23(7)	14(6)	1.6倍
本校試験(第1期)	40名	2,043(911)	111(44)	18.4倍
地方試験(第2期)	20名	1,260(585)	26(15)	48.5倍

本年度獣医学科に入学した1年生は140名(うち女子は66名)でした。

()は女子

■ 学年担任

- 1年次：佐藤常男教授（獣医病理学）
小堂俊孝助教授（英語）
大谷 功講師（獣医生理学）
- 2年次：津曲茂久教授（獣医臨床繁殖学）
加納 翌講師（獣医臨床病理学）
- 3年次：湯川真嘉教授（実験動物学）
大場茂夫講師（獣医内科学）
- 4年次：浅野隆司教授（獣医薬理学）
渋谷 久助教授（獣医病理学）
- 5年次：金山喜一教授（獣医生理学）
壁谷英則講師（獣医公衆衛生学）
- 6年次：月瀬東教授（獣医解剖学）
森友忠昭助教授（魚病学）

■ 退職

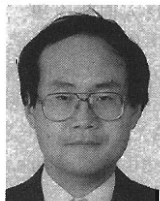
福田陽一先生(獣医微生物学)、
村杉栄治先生(獣医第二内科学)、
土床和弘先生(獣医伝染病学)、
中村 遊香先生(獣医内科学)、
田中智子さん(獣医生化学)が
ご退職されました。

■ 昇格・移動

佐藤常男先生(獣医病理学)、
津曲茂久先生(獣医臨床繁殖学)が教授に、
渋谷 久先生(獣医病理学)が助教授に、
大谷 功先生(獣医生理学)、鈴木一由先生
(獣医薬理学)、椎橋 孝先生(医動物学)が
専任講師に、それぞれ昇格されました。

■ 新任

泉對 博教授
(獣医伝染病学)が
着任されました。



■ 訃 報

平成10年から14年まで本学で教授を勤められました竹内 啓先生(総合臨床獣医学研究室)が、平成16年7月12日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

追悼文

竹内啓先生を偲んで

総合臨床獣医学 亘 敏広

平成16年7月12日竹内啓先生が突然この世を去られた。この日は私にとって忘れられない日になるであろう。竹内先生は東京大学の獣医外科の教授を退官後、山口大学、岩手大学へと移られ最後に我が日本大学に平成10年に着任された。最初の一年は獣医放射線学の研究室に所属され、翌平成11年からは総合臨床獣医学の研究室を立ち上げ現在に至っている。また同年に日本獣医師会の卒後研修事業の一環として我が国で初となる有給研修医の制度を立ち上げ、今までの研修医とは異なる欧米型のローテーションにより研修を行うスタイルを取り入れ国内の多くの獣医科大学における卒後研修のプロトタイプを示し実現させた。このプランは東大時代から竹内先生の中で構想していたものだが、現実問題として実行できない理想の姿であったと伺っている。それ以来本学の研修医制度は他大学からも注目を浴び、他に追随を得ないまま6年を経過している。我々は竹内先生のご遺志を継ぎこの臨床研修制度を全国的に広め、我が国の臨床獣医学のレベルアップに貢献するよう努力し続ける義務を負ったものと肝に銘じている。

今年6月に米国の獣医内科学会へ出発する数日前に竹内先生が入院されたというニュースを耳にした。徳力先生が一度お見舞いに行かれ、持病の心臓病の薬の効きが悪くなったので薬を変更し安定するまで3週間くらいは入院しなければならないという話を伺っていた。日大の教授時代にも体調を崩されて入院されていたので今回もそのようなものかと思っていたのは事実である。心臓の持病のことは常々話されておられ日々の症例検討会にも症例にあわせてご自分の病状のことを笑顔で話されていたのが昨日のように思えてならない。先生は定年後もハードワークをこなされていた状況だっただけに入院されてしばらくゆっくりされた方が良いのではないかと考えていた。そしてアメリカから帰ってきたころにはきっと退院間近でいるだろうと思っていた。帰国後6月25日に徳力先生がお見舞いに行かれた時には既にCCUに入っていたという話を聞き、あの竹内先生がなぜ？という疑問に思えてならなかった。そのころからは面会は家族のみという状況が続き最後までお会いすることができずこの日を迎えることになってしまった。

7月18日芝増上寺で行われた告別式の最後に拝見した竹内先生のお顔はやすらかで、最後まで人生を全力で走り抜け満足しているように思えたのは私だけだろうか。竹内先生のご冥福を祈るとともに今までに先生から頂いたご恩に報いるため、先生のご遺志を継承し日本大学の獣医学教育をさらに向上させ、ひいては日本の獣医学全体のレベルアップにつながるよう進んでゆきたいと存じます。長い間ありがとうございました。



獣医師国家試験

第55回獣医師国家試験の結果が平成16年3月17日に発表されました。日本大学獣医学科からは新卒者142人が受験し、127人が合格しました。合格率は89.4%で(全国平均93.0%)、昨年度の合格率を大きく上回りました。



表彰、受賞、学位等の授与

卒業生の井上佐和子さんが優等賞、武井昭紘さん、守屋 明さんが学部長賞、朝比奈由佳さんが日本獣医師会会長賞をそれぞれ受賞されました。角笛会会長賞は、尾身衛祐さん、大滝奈々さんに授与されました。

また、教員では加納 翌先生(獣医臨床病理学研究室)が学部長賞を受賞されました。



博士(獣医学)の学位取得者

今年度大学院博士課程を修了し博士(獣医学)を取得された方は、北川勝人氏(小動物中枢神経系疾患の臨床疫学的研究)、杉澤 仁氏(ウシ乳汁中の好中球活性化とその作用機序の解明)、論文提出により博士(獣医学)を取得された方は、鳥海 弘氏(豚卵巣疾患の臨床疫学的研究)です。

トピックス

秋の褒章で見上彪先生に紫綬褒章

平成 15 年度 11 月 14 日、元本学獣医学科教授・見上彪先生がめでたく紫綬褒章を受章されました。この褒賞は「学術・芸術上の発明・改良・制作に関し事業著明なもの」に贈られるものですが、先生の研究に対する真摯な努力と数多くの業績が認められた結果であります。心よりお祝い申し上げます。



見上先生は、平成 10 年 3 月に東京大学教授を停年・退官された後、帯広畜産大学原虫病研究センター教授兼センター長をお勤めになり、平成 13 年より日本大学生物資源科学部獣医学科獣医公衆衛生学研究室に教授として就任されました。平成 15 年 6 月に本学を

退職され、現在は内閣府 食品安全委員会の常勤委員として、国民の食の安全と健康確保にご尽力されています。

見上先生は獣医ウイルス学の分野、特に鶏のマレック病ウイルスの基礎的研究で、疫学、病理発生、免疫およびワクチンの作用機序解明のために総合的な研究を行われ、多くの研究業績を挙げられました。また先生は、マレック病ウイルスの研究にとどまらず、各種動物疾病の病因である鶏のニューカッスル病ウイルス、インフルエンザウイルス、猫の免疫不全ウイルス、白血球ウイルス、ヘルペスウイルス 1 型、カリシウイルス、スプーマウイルス、犬のヘルペスウイルス、ジステンパーウイルス、パルボウイルス、牛の白血球ウイルス、牛痘ウイルス、馬のヘルペスウイルス 4 型、羊のオルフウイルス、ミンクの腸炎ウイルス、魚のヘルペスウイルスなど、数多くのウイルスを対象として、ウイ

ルス学、分子生物学、生化学、免疫学等の広範囲にわたる研究を後進と共に行い、優れた業績を挙げられました。これらの研究成果は、動物ウイルスの潜伏・持続感染、発症機構や動物ウイルスによる免疫不全症誘発機序および神経病原性等、宿主寄生体関係の解明に重要な知見を与えています。

最近では新しい型のワクチンとして、ヘルペスウイルスベクターを用いた組換えワクチンの基礎開発研究に先駆的成果を挙げ、各種動物の微生物感染症に対するワクチン開発分野において研究の中心となっています。また、世界に先駆けてマレック病ウイルス 2 型ゲノムのほぼ全長 (98%) の塩基配列の決定も行なわれるなど、数々の業績を挙げられ、動物ウイルス学の進展に多大な貢献をされました。

見上先生の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。(文・丸山統一)

春の叙勲で佐久間勇次先生に瑞宝中綬章

日本大学名誉教授 佐久間勇次先生は平成 16 年 4 月 29 日、教育研究に対する功労から瑞宝中綬章をお受けになられた。5 月 12 日には国立大劇場における勲章伝達式にご出席された後、皇居宮殿で天皇・皇后両陛下に拝謁された。(瑞宝中綬章は、昨年春までの旧・叙勲制度における勲三等瑞宝章に相当する)

佐久間勇次先生は家畜の生産性を向上させるべく基礎研究に取り組んで来られた。とくに受精卵移植ならびにその関連分野に関するご造詣が深く、我が国において受精卵移植による産子を家畜で初めて得ることに成功したのは佐久間先生である。

オール日大の馬術部長を長年にわたりお務めになり、大学馬術の振興に多大な尽力を果たされた。さらに日大を定年ご退職後は川越

市教育委員会委員長として児童・生徒の情操教育の充実に尽力なされ、学校飼育動物の導入、普及等に関して成果を挙げて来られた。

先生の叙勲祝賀会は、去る 5 月 22 日、横浜中華街「葉」で来賓、関係者が多数出席して開催され、なごやかで盛会であった。(文・金山喜一)

生物資源科学部学術部連盟

30 周年記念式典開催される。

獣医学科 5 年 駒崎 瀬利

平成 16 年 9 月 25 日に、学術部連盟発足 30 周年式典を本学 NUBS ホールにて開催いたしました。当日は学部長をはじめ、各連盟サークルの顧問の先生方、歴代執行部や部長など数多くの来賓が集いました。来賓の方々の挨拶では、30 周年に留まらず、40、50 周年と続きますようにとのお言葉をいただきました。記念品として、参加してくださった方全員に 30 代までの執行部員および部長の名簿を冊子にしたものが渡されました。当日参加してくださった先輩方は、学生時代の頃の話や、現在そしてこれからの話をされていましたが、その時は学生に戻ったかのように楽しんでいた様子でした。初代学連委員長(永富 靖



昭和 50 年卒) が獣医学科所属ということもあり、式典は先輩後輩の交流の場として活気のある会となりました。僕たちもその当時の大学がどのようなであったか、卒業してからの人生経験などを話していただける大変良い機会にめぐまれました。皆様もご存知とは思いますが、獣医学科には獣医学科

学術研究部臨床班、臨床繁殖班、基礎班の 3 サークルがあります。式典にはこれら 3 班の出身の先輩方も数多く参加してくださいました。これらのサークルには、今でも大半の獣医学生が所属しており、仲間をつくり、先輩とのつながりをもつ大変良い交流の場として盛り上がっています。また藤桜祭や学術発表会で活動の集大成ともなる学術発表を行い、一致団結して頑張っています。卒業以来、

友人や先輩後輩に出会う機会は少なくなりますが、今回行われた 30 周年記念式典のような皆さんが交流を持っていたかのような場は存続していかなければならないと感じました。今後このような機会がありましたら、卒業された先輩方も是非足を運んでいただきたいと思います。

学会関連記事

第 42 回日本大学獣医学会が下記の通り開催されました。今回は初めての試みとして角笛会総会との合同開催となりました。

学 会 長：佐藤常男
担当学会長：津曲茂久
事 務 局：渋谷 久

日 時：平成 16 年 7 月 3 日(土)
場 所：日本大学生物資源科学部湘南校舎
教育講演：「小動物臨床の近未来に向けて」
講 師：中川 秀樹 本会会長
座 長：津曲 茂男
ポスター発表 11 演題

第 43 回日本大学獣医学会開催案内

日 時：平成 17 年 6 月 4 日(土) 9:30~15:30
場 所：日本大学生物資源科学部 神奈川県藤沢市亀井野 1866
(小田急線 六会日大前駅下車)
参 加 費：学会参加費 1,000 円 (学生無料)
問 合 せ：事務局 〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野 1866
日本大学生物資源科学部獣医病理学研究室(渋谷 久)
TEL&FAX. 0466-84-3631
E-mail. shibuyah@brs.nihon-u.ac.jp

ワシントン州立大学夏季獣医臨床研修



米国の獣医学は教育、研究そして環境の面で世界的に優れている。多くの教育スタッフ、最先端の臨床理論と実習施設を有している米国ワシントン州立大学獣医学部で、専門的な知識を実践的に学び、また獣医師の国際化への対応という視点で、異文化に触れることによる国際性豊かな人間性を育むことが、本研修の目的である。

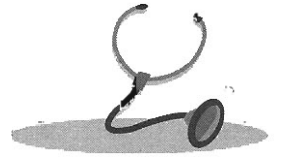
本研修は日本の獣医学教育において十分反映されていない専門科目を中心に、実習を主体とした教育である。米国においては獣医専門医制度が確立されており、小動物および馬医学コースの専門医から

講義および実習を1日当り8時間、計10日間受講する。研修内容は大きく小動物および馬医学コースに分け、小動物では超音波・放射線学、麻酔学、神経学、整形外科学、内視鏡学、エキゾチックアニマル学、小動物行動学、歯科学、創傷管理、救急医療などを、馬医学コースでは繁殖学、跛行診断学、運動生理学、麻酔学、歯科学、神経学、新生児学などが含まれる。

毎年、研修最終日に実習内容および生活面に関するアンケートを実施している。5段階評価における学生の満足度は毎年、平均以上の評価を受けている。特に、実習内容

として好評を得ている点として、少人数制で内容の深い実習と充実した現地教育スタッフの丁寧な指導である。また文化交流の面としては、週末や最終日に開催される現地教育スタッフとの食事会や懇親会などが、好評を博している。

(文・渋谷 久)



平成16年度獣医学科

ワシントン州立大学・夏期獣医臨床研修

平成16年7月25日から8月7日までの2週間にわたり、日本大学と姉妹校であるワシントン州立大学(WSU)獣医学部において恒例の夏期獣医臨床研修が開催されました。SARSによる海外渡航自粛により昨年度は中止になったため、今回が第13回目になります。



本年度の参加学生は過去最多の46名(5年生39名、6年生7名)で、小動物臨床コース(32名)、馬臨床コース(14名)の2コースが開催されました。それぞれのコースは朝8時の

開始から17時の終了まで、実技主体の研修が行われ、特に、希望学生の多かった小動物臨床コースでは、32名を2クラスに分け、多

くの科目で同一の授業と実習が2回ずつ実施されました。各実習では1〜数名毎に教材・動物が準備され、傍観で済ますことができない環境下での濃密な教育が特色です。また、留学期間中にはバーベキューパーティー、ディスコパーティー、ハイキングなど各種の行

事も企画され、WSUの教員や学生との交流が深められるとともに、アメリカの文化や習慣を学ぶ貴重な機会となりました。修了式ではBayly 獣医学部長から一人一人に修了証が

授与され、引き続き行われた深夜までのダンスパーティーにより参加学生の感動と感激は最高潮になりました。アンケートによれば、研修内容に対する学生の評価は大変好評であり、専門教育および生活環境に関して本年度の研修が満足度の高いものであったことが伺われます。なお、本年度から本研修の振替認定科目が獣医専門演習「へ変更となりました。(引率教員:野上貞雄、渋谷 久、山谷吉樹、鯉江 洋、日暮美紀)

(文・野上貞雄)



The 2 weeks giving Large Experience

獣医学科 5年 小林 功

見渡す限り黄金色の小麦畑、ワシントン州立大学のあるプルマンという町はそんな広大な小麦畑の中に位置している。学園都市として栄えているプルマンは町の半分近くが大学の敷地であり、大学が町のシンボルにもなっている。この研修が行われる7月下旬から8月上旬は大学がちょうど夏休みで、学生の多くは故郷へ帰省しているため学内に学生は少なく、町も閑散としていた。

英語圏での生活を体験し、英会話能力を向上させるのも今回の研修に参加した大きな目的であった。授業や実習以外は全て自由行動であるため、食事をしにプルマン市内のレストランに行くことも多い。レストランや店での対応はコミュニケーションの練習の格好の場所となる。会話やレジでの支払いには次第に慣れていくものの、英語が聴き取れない、言いたいことがうまく英語にできない、言った事が通じないといったことには最後まで悩まされた。しかしながら対応がうまくいくと自信が付くもので、積極的に話しかけて練習するように心掛けていた。

ワシントン州立大学は広大な敷地にレンガ造りの建物が軒を連ねる西洋風の町並みをイメージさせるものだった。中には講堂なのか民家なのか区別の付かない建物もある。その

中で最もスケールの大きさを感じたのは大学付属の動物病院であった。ワシントン州立大学の動物病院は大動物、小動物共に診療できるだけの敷地、設備が整っており、州内だけでなく州外からも診療に訪れる患者がいる。小動物は犬、猫が主体であることは日本と同じであるが、大動物の主体は馬であり、年間の患者数は小動物に劣らない程多いらしい。アメリカにおいていかに馬が家畜として重要であるかが伺える。

研修は小動物コースと馬コースとに分かれて約2週間行われる。どちらのコースも内容が充実しており、貴重な体験をできるものであるが、今回は馬コースを選択した。日本の獣医科大学では馬を学ぶ機会はその多いものではなく、まして生きた馬を使つての実習などは体験できないのが普通である。しかしな

がらこの研修においては馬の心臓病学、呼吸器病学、消化器病学、運動器病学、繁殖学、歯学などの他に、X線診断や超音波診断、子馬学といったことまで実際に馬を使いながら学ぶことができる。講義、実習では専属の方の通訳により、不自由なく理解することができ、よりいっそう楽しいものとなり、充実したものとなった。

異国の地で気候が違い、食習慣が違い、そして言語が違う、こういった環境の下で生活するだけでも様々な経験が得られるが、さらに同じ獣医師を目指す仲間と共同で行われるこの研修から得られる経験は計り知れない程大きなものだ。それらは今後の人生の糧となるばかりでなく、忘れられない一生の思い出ともなるだろう。



角笛会関連記事

「東京角笛会」の年間行事

東京都支部長 倉林恵太郎(昭和36年卒)

東京角笛会の正式な名称は、角笛会東京都支部であります。本会会則に「東京角笛会という」とあり、一般的に使っている名称です。

本会の年間行事は、総会とセミナーの開催、新年会の開催、会報2回発行、日本大学医療系同窓・校友連絡会に加盟し学術講習会開催であります。

総会とセミナーは、同日開催しています。総会に折角会員が集まるのですからセミナーを開催しています。開業者、勤務者など専門が違いますので、なるべく共通して聴講できるテーマにしています。平成16年度は、平成16年7月4日(日)アルカディア市ヶ谷(私学会館)において、午後1時より1時25分まで総会、午後1時30分より4時までセミナーを開催しました。総会の議案は平成15年度の事業報告と収支決算報告、平成16年度の事業計画と収支予算でありました。総会資料は、前号の会報に掲載して、会員のどなたでもご覧になれるようにしています。今年度のセミナーは、「人の食生活に対する獣医師の役割、獣医師として知っておきたいこと」について、日本大学生物資源科学部客員教授で内閣府食品安全委員会委員の見上彪先生にご講演を頂きました。見上先生は、あらゆる角度から幅広くご講演下さいました。まとめとして、獣医学は総合生物学、食と極めて深い関わりを持ち人以外

のすべての動物を扱う学問で、食の安全から食用動物では動物衛生などを通じて直接的に関与し、食用植物では循環型環境保全を通じて関与し、農場から食卓までの全ての製造段階で関与している。獣医師は食の安全に対する阻害因子を知り、比較動物学的で自己研鑽に励む(文責・筆者)と講演されました。セミナー終了後、恒例の懇親会を行いました。

新年会は、曜日に関係なく正月10日に開催してきましたが、ときに曜日を考慮して1〜2日ずらして開催することもありました。獣医学科主任の先生になるべくご都合をつけていただき、獣医学科の近況についてお話しただくのがとても有意義であります。獣医学科の教授と助教授に新年会の招待状をお送りしています。新春を飾る関係会社や役員が寄付された物品のビンゴゲームがありまして、毎年賑わっています。

会報は定期的に年2回、確実に発行しています。この会報で本会のイベントと学部の情報を広報しています。

日本大学医療系同窓・校友連絡会に現在、本会が加盟しています。この連絡会は医師(医学部同窓会)、歯科医師(歯学部同窓会、松戸歯学部同窓会)、薬剤師(薬学部校友会)、獣医師(獣医学科校友会東京角笛会)のいわゆる四師の連絡会で括弧内は、対応している団体です。この連絡会の始まりについて本誌第19号に野坂宏先生が「四師会(日本大学医療系同窓・校友連絡会)を支持しよう」に詳しくお書きになっています。私学で四師を輩出しているのは日本大学のみ

であります。この恵まれた条件を横の連絡で結びつけて情報交換する場があります。東京の多摩地区で発足した組織が現在の連絡会に発展いたしました。そして平成16年9月25日に歯学部同窓会の担当で第3回学術講習会が東京・市ヶ谷の日本大学会館で開催されました。瀬在幸安日本大学総長が四の学部と一学科が枠を越えて講演会を開催することは、極めて意義のあることで、ご同慶に堪えないむね挨拶をされました。獣医学科は、日本大学生物資源科学部獣医公衆衛生学研究室助教授 丸山総一先生が「牛海綿状脳症(BSE)」、同研究室の専任講師 壁谷英則先生が「高病原性鳥インフルエンザ」について講演されました。

この連絡会の組織団体はさきに記しましたが、本会以外は全国組織です。創設の経緯から獣医関係は本会が対応してきましたが、可及的速やかに全国組織である、角笛会に対応して頂きたいと思えます。そして本会は地元東京としてバックアップすべきであると思っています。このことについて平成16年角笛会幹事会に提案いたしました。が、広報不足のためもありまして、同意をいただけませんでした。本会からまた提案いたしますので会員諸兄の深いご理解をお願いします。

次回第4回講演会は、平成17年9月17日(土)日本大学会館において、松戸歯学部同窓会の担当で開催されます。平成18年の第5回は獣医学科校友会の開催担当です。

岩手県支部だより

事務局 大和 貢(平成4年卒)

平成16年度岩手県支部総会は10月2日花巻市台温泉において開催されました。(毎年10月頃花巻、盛岡いずれかの温泉街で開催しております。)

今年の総会では役員改正が主な議事であり、支部会長には三浦賢良氏(昭和32年卒)が再任されました。また、本校から臨床繁殖学研究室の津曲教授をお迎えし、本校の動向についてご説明頂いた後、『トリビアの泉〜繁殖



編〜と称した先生ならではの知己かつユーモアに富んだ御講演を頂き、出席者一同楽しい時間を過ごすことができました。

引き続き懇親会がもたれ、会場となった温泉旅館の心遣いもあり、一部の会員は延々と深夜まで無事に飲み明かすことができました。津曲教授には最後までお付き合いいただき御講演とあわせて大変感謝しております。

例年、総会および懇親会へは出席率2〜3割でほぼ固定メンバーでありますし、女性会員が増えてきていること等も考慮し、一人でも多く出席していただけるよう事務局として検討していかなければ

と考えております。

今後とも、三浦支部会長のもと支部活動を通して母校の発展に寄与しつつ、支部会員相互の繋がりを大切に、親睦を深めて行きたいと考えておりますので御指導と御支援をお願い致します。



求人のお願ひ

女子学生の増加に伴い、小動物臨床の勤務医を希望する者が増えています。会員からの求人申し込みは学部就職指導課ならびに6年次担任(月瀬東教授、森友忠昭助教授)までご連絡ください。

編集後記

今年度は台風・地震と自然災害が猛威を振るい、全国各地の校友の中にも被害を受けられた方が多いのではないのでしょうか。心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く平常の生活が送れるよう、お祈り申し上げます。

角笛会会報も20号という節目を迎え、長い間本誌編集にご尽力された丸山総一先生から担当を新たに引き継ぐこととなりました。全く不慣れな作業のため、至らぬ点も多いかと存じますがどうかご容赦ください。校友の皆様のご協力をいただきながら、より良い会報作りに努力していきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。尚、事務局アルバイトのとして新たに小菅詩子さんにお手伝いいただくことになりました。合わせてどうぞ宜しくお願いいたします。角笛会会報への掲載記事などがございましたら、是非事務局までご一報頂ければと思います。

(2004年10月30日 椎橋 孝 平成9年卒)